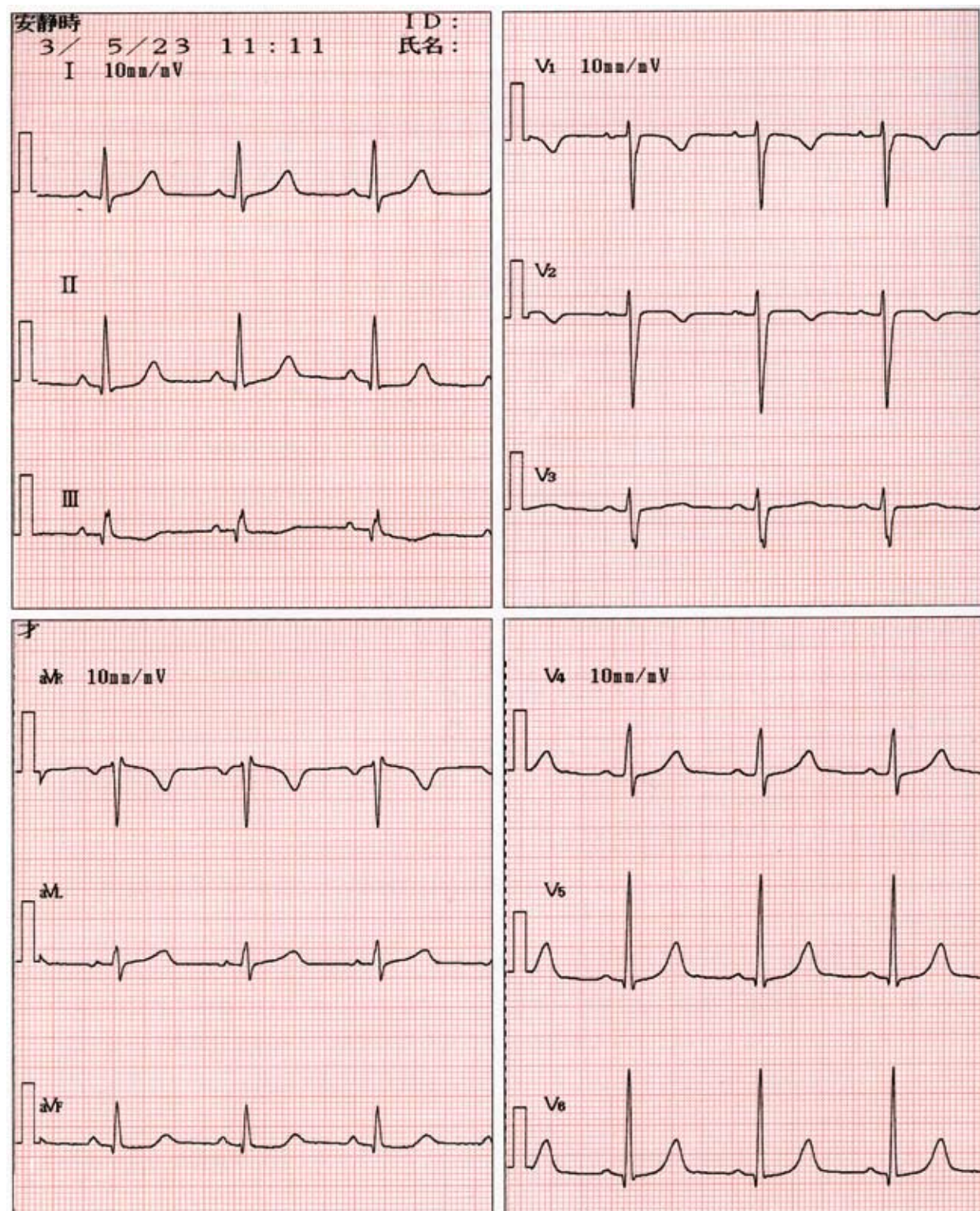


Q1

この心電図の心拍数は…

① 約60回/分 ② 約70回/分 ③ 約80回/分



GOCCIM

- ① **全体像**：すべての誘導で、きわめて規則正しく電気的興奮と回復を繰り返していることがわかります。
- ② **観察**：どこにも異常所見を発見することができません。
- ③ **考察**：「13のチェックポイント」で心電図を見てみましょう。

① 校正波形	1 mV = 10 mm
② 心拍数	68回/分 (心拍数の求め方は第2章「②心拍数」(p.41)で復習しましょう)
③ リズム	P-P = R-R
④ PR間隔	0.15秒
⑤ P波	すべての誘導で1峰性。一番振れが大きい第II誘導の幅は0.09秒、高さは2.0mmです。V ₁ でも異常は見られません
⑥ QRS群	幅は0.09秒。第II、III、aV _F 、V ₅ 、V ₆ で1mmの正常範囲のq波が見られます。R波の高さは第I誘導で9mm、第II誘導で12mm、V ₅ で17mmです。S波は第I誘導で2mm、V ₁ ~V ₄ でも正常範囲のS波が見られます。V ₅ で1mm、V ₆ ではR波のみです。したがって正常範囲です。移行帯はV ₃ とV ₄ の間にあります
⑦ QT間隔	すべての誘導で0.45秒以内であり、 少し延長 しています
⑧ 平均電気軸	第I誘導で+6mm、第III誘導で+4mmです。これを電気軸シートに当てはめると+54°となり、正常範囲です
⑨ 胸部誘導におけるR波の増高	V ₁ ~V ₅ にかけてキレイに増高しています。R/S比≧1.0になっている部位はV ₃ とV ₄ の中間で、V ₁ ~V ₃ までが右室側、V ₄ ~V ₆ が左室側ということになります。異常所見はありません
⑩ 異常Q波	どこにも見当たりません
⑪ ST部分	すべての誘導において上昇も下降も見られないため、正常です
⑫ T波	aV _R 以外のすべての誘導で陽性になっており、高さはV ₅ ~V ₆ でR波の1/2から1/8の間にあるため、正常と考えられます
⑬ U波	すべての誘導で著明なU波は見られません

したがって、①~⑬を総合してみると異常所見が見られないところから**正常心電図**と判定できます。

- ④ **原因**：この症例は28歳の女性ですが、6歳のときに「**動脈管開存**」の切断術を行いました。手術後の経過は順調で、毎年の定期検診でも異常は見られません。術後の聴診所見はまったく健常者と変わらず、心基部においても正常のS₁ < S₂の状態が保たれています。
- ⑤ **判読**：ここで各波形を単語として見てみましょう。第I誘導では「**P-R-S-T**」という語順になっています。13のチェックポイントのところでも話しましたが、第I誘導でq波が見られなくても、正常心電図と判定できるのです。また、少しQT間隔が延長していますが、T波の高さはR波の1/2以下であり、U波も見られないところから、低カリウム血症の可能性はきわめて低いと考えられます。人それぞれ顔が違うように、正常でもこういった心電図を示すことがあるのです。
- ⑥ **対応**：術後は健康に経過していますから、年2回の検診でフォローすることでよいと考えられます。

解答：② 約70回/分

1章

2章

3章

4章

5章

● 50症例に挑戦しよう